

Vol. **132号**

Colony Tokyo

コロニーとうきょう

2004 (平成16) 年
4月1日発行

コロニー 社会福祉 東京コロニー
法人
〒165-0023
東京都中野区江原町2-6-7
TEL 03-3952-6166
FAX 03-5952-6664
<http://www.tocolo.or.jp/>
(法人本部 事務局)



アートビリティギャラリー 9 作者 野村 育葉 『アンコールワット』(詳しくは11頁をご覧ください。)

トピックス
法人の主な動きから
2004年度 事業計画・予算書
アートビリティギャラリー

法人本部・コロニー印刷所・アートビリティ・IT事業本部・デジタルメディアセンター・トーコロ情報処理センター機能開発室(〒165-0023 中野区江原町2-6-7)・葛飾福祉工場(〒125-0042 葛飾区金町2-8-20)・立石工場(〒124-0012 葛飾区立石8-50-1)・トーコロ情報処理センター事業部(〒162-0051 新宿区西早稲田2-2-8)・コロニー東村山印刷所・コロニー東村山・コロニー東村山第二印刷所(〒189-0001 東村山市秋津町2-22-9)・大田福祉工場(〒143-0015 大田区大森西2-22-26)・浜松町工場(〒105-0022 港区海岸1-4-17)・トーコロ青葉ワークセンター・トーコロ青葉第二ワークセンター・トーコロ青葉第三ワークセンター(〒189-0002 東村山市青葉町2-39-10)・国分寺戸倉寮(〒185-0003 国分寺市戸倉1-21-9)・東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮(〒203-0004 東久留米市氷川台2-31-22)

とろあ(す)

中野工場

「三菱商事バレンタインイベントに参加」

三菱商事社会・環境室の社内チャリティイベント「バレンタインギフト販売会」が、2月9日と10日に品川、丸の内両オフィスにて開催され、中野工場のフタバベーカリーが丸の内オフィスの方に出店をさせていただきました。

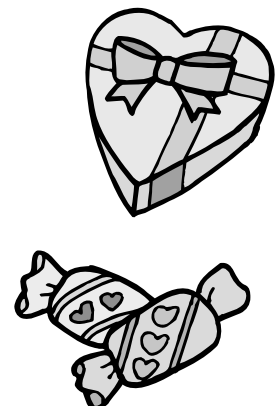
これは同社会・環境室が毎年社会貢献活動の一環として、社員に呼びかけ実施しているもので、売上金は全額各団体の収益となります。昨年も授産施設等に出店してもらった同様の企画を行い大変好評だったので、その第二段として今年度も実施することになったそうです。丸の内オフィスにはベーカリーも含め日本セルブセンターの会員団体の授産施設、福祉作業所、等八団体が参加していました。

実施時期が2月14日のバレンタインデーの直前にあたりましたので、「バレンタインギフト」と銘打った販売会となりチョコプレートやお菓子類の商品が多いようでした。ベーカリーもチョコプレートパンを含めた菓子パンを販売させてもらいました。用意された一階の会議室に一時間前

から入り準備しました。昼休みに外で食事を終えたあと来場する人がほとんどで、混雑するというほどではありませんでしたが、一時間の間に延べ〇〇人ほどの来場があり、ベーカリーも五、七五〇円の売上を上げることができました。主催者の担当窓口である社会・環境室の上野さんからは早速「とてもおいしかった」とメールをいただきました。ありがとうございました。ありがとうございました。その他は直接感想は伺えませんが、味には自信があるので皆さん「けっこういいなあ」と思ってくれていると思います。グローバルなお仕事をされている三菱商事の社員の方々ですから、どこかでパンの話が紹介され、ひよっとして海外から注文が入るかも……。

この度は販売機会のご提供誠にありがとうございました。(敬称略)

(総務部長 星 忍)



東村山工場

東村山の地域生活支援に向けて

東村山工場では、現在地域生活支援に向けての取り組みとして通所化検討委員会による個別面談などを行い、利用者の皆さんの具体的なニーズを捉える為の活動をしています。併せて東村山市や東京都などに対しても障害者の方達が地域生活を実現するためには、より多くの公共住宅の確保が必要と訴えるなどの活動をしてきました。その中で「一度コロニー印刷所（中野工場）を利用され地域生活を実現された人たちの話を聞きたい。」という意見が出され、中野工場と相談調整を行い二〇〇四年2月17日（火）午後2時から東村山工場の食堂にて懇談会を行いました。参加者は中野工場にて現在寮から通所へと切り替わられた3名の方たちを招き、東村山からは寮利用の方22名のうち入院されている方と当日体調不良の方を除きすべての方20名が出席されました。

事、そしてそれらをどのように解決していったか、また通所後に起きた大変だったことやその対処方法などをそれぞれの方から話をしていたいただきました。実際に通所に踏み切られた方たちのお話は、私たちが話す事以上に説得力があったと感じました。懇談会に参加された方たちのまなざしはみな真剣で一言一言を食い入るように聞いていたのがとても印象的でした。初対面という事もあったためか質問などあまり活発ではありませんでしたが、中野区と東村山市という異なる自治体での障害者施策への取り組みの差、具体的には家賃補助などの施策の地域差、その反面家賃相場の大きな違いなども興味深く聞いていました。

最後に中野の方たちからこれから通所に向かうに当たってのアドバイスを頂き懇談会を終えました。この4月、5月に4名の方が地域生活にチャレンジします。今回の懇談会を参考とし、ぜひとも充実した生活に繋げていきたいと感じました。（ケースワーカー 井上 忠幸）



I-T事業本部

障害者ワークショップに参加

2月13日・14日、東京ドームシティアプリズム・ホールにて「障害者ワークショップフェア」が開催されました。これは、障害者の就労状況を広く認知させることを目的に「高齢・障害者雇用支援機構」が主催するもので、私も職能開発室は今回が初めての参加です。

展示内容は、職能開発室の三事業である「在宅教育」「在宅雇用支援」「在宅就労支援」の三つです。これらをパネルにまとめて説明をしたり、在宅講習で使用しているシステム「トーコロBBS」を来場者に体験していただいたりしました。

会場内の多くのブースは、授産施設で作られたクッキーや工芸品の即売や電動車椅子の試乗など、見た目にわかりやすく華やかなモノの展示です。それに対して、私たちが展示するのは「在宅就労支援」という目には見えないサービス。そんな少々異色なブースでありながらも、思ったより多くの方が、説明のパネルやパンフレットに目を留めてくださいました。

事業主の方からは、「社員が障害をもって通勤が困難になったので在

宅勤務を検討したい」といったことや「障害者向けのパソコン教室をやってみたい」などのご相談がありました。また、全国各地からみえた「障害者職業能力開発校」の指導者の方々と、技術教育のあり方や互いの悩みについて情報交換をするなど、さまざまな収穫がありました。

当日は在宅講習の受講生や、SOHOで仕事をしているメンバーなども説明員として駆けつけ、ブースを盛り上げてくれました。説明をしたり来場者と交流をもったことで、私たちと同様に何か新しい発見をしていただけたのではないかと思います。今後も機会があれば、このような展示会に参加し、視野を広げていきたいと考えています。

（職能開発室 岩田真紀）



青葉ワークセンター

トーコロ青葉ワークセンター内で、福祉施設職員として新しい刺激を取り入れていくために職員研修を計画しました。今回はそれぞれ職員の希望内容に、できるだけ沿う形で計画、実施しました。

実施内容

二〇〇三年12月3日

町田市にある知的障害者通所授産施設かたつむりの家を見学。

かたつむりの家は自閉症を伴う知的障害者の方が多く利用している施設です。当センターの職員2名が、1日作業場に入り実習をさせて頂きました。

二〇〇三年12月2日

川越市にある知的障害者通所授産施設今福授産所を見学。

ケースワーカー看護師会議の企画の見学に当センター職員3名、一緒に同行させて頂きました。

二〇〇四年2月9日、10日

都立清瀬養護学校の授業を見学。見学したいという希望者が多かったため、2日に渡り、2回に分けた形で依頼し「仕事」といわれる作業に取り組み授業の様子を中心に見学しました。

二〇〇四年1月22日

小平市にある精神障害者通所授産施設あさやけ第二作業所を見学。

利用者が作業している現場の見学や、利用者の工賃についての説明を聞きました。

それぞれ実施した内容の報告はこれから報告会という形で行う予定です。

今回は他の施設、機関を見学などさせて頂きました。今後はこれをきっかけに、それぞれ各人の問題意識を、より深めることができればと思います。

他の施設、機関の実践を知ること、自分たちが行っていることを客観的に見渡すためにも必要のように思いました。

(ケースワーカー 鶴田 善昌)

福祉事業本部

国分寺戸倉寮 七周年を迎えて

生まれた赤ちゃんが小学校に入学をしたのと同じだけの時を重ねた国分寺戸倉寮です。

3月5日(金)七周年の食事を、戸倉寮に近いレストランでご家族、職場の方々にも御参加頂き、19名で

ささやかながらも和気藹々に想い出、今後の生活寮の話に花が咲き賑やかに過ぎました。

東京コロナーとして、はじめての生活寮であり、あたたかいご家族の元を離れた入居者の方々、はじめて離れるご家族の方々、全員が生活寮の日々に不安や戸惑いは隠せなかつたことでしょう。確かに平穏な日々ばかりでなかったのも事実です。試行錯誤を繰り返し職場、ご家族の方々のお力添えで大過なくこの日を迎えました。しかし、何にも増して入居者の努力の賜物であり、時間は無駄に流れませんでした。生活寮は四角四面に収まらない生活そのものですが家庭生活ではありません。共同生活の中で彼等なりに人の振り見て我が振り直す事もありました。入居者の皆さんには、生活に関わる

諸々は出来る限り自分で行ってもらいました。出来る、出来ないは別問題でした。ほんの僅かな事でも出来るようになったということでの他の



面の自信に繋がりに、ご本人の喜びにも繋がりました。ただ無理は避け、ギリギリまで慌てず、騒がず待つ気持ちが必要でした。

例えば洗濯物を取り込む時、先に確認だけは行い、彼等が全部取り込めば「乾いていないよ。」と言うのではなく「全部乾いていた?」と聞けば彼等はもう一度見ます。「乾いていない。」と応えれば「どこ?」と問い「これ!」と指してくれました。判断を伴うことは難しい面はありましたが不可能ではありません。ちよつとした目と耳と一言を加えれば完全です。何事にもこの目と耳と一言が支援する側にとって大切なのだと痛感しています。

近い将来、生活寮での生活をベースに、支援費のサービスを受けつつ自分の思いに叶った自由で楽しい生き方の選択も夢ではないと感じています。(国分寺戸倉寮 篠原ミツ)



葛飾工場

公正採用選考人権啓発推進員研修会に参加して

去る3月4日に、墨田公共職業安定所主催による、公正採用選考人権啓発推進員研修会に参加しましたので、その概要を報告します。

皆さんは「公正採用選考人権啓発推進員」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。「公正採用選考人権啓発推進員制度」とは、一定規模以上の事業所の人事責任者を公正採用選考人権啓発推進員として選任して、当該推進員に対し計画的、継続的な研修等を行って、同和問題を是れとす人権問題の正しい理解と認識のもとに、公正な採用・選考システムを確立するよう指導し、国民の就職の機会均等の確保を図ることを目的とした制度です。

研修会はまずビデオの鑑賞から始まりました。同和改善事業前の被差別部落の町並みが映し出され、その後同和改善事業後の整然とした町並みの紹介がありました。それから昔の暮らしが被差別部落の人たちによって紹介されました。特に、部落に漁港がないため、車で山越えをして遠い漁港まで行っていたのが、部落に漁港ができて生活が便利にな

ったと語る漁師さんのうれしそうな顔が印象的でした。

この後、「職場の活性化と人権を考える」と題して弁護士さんによる講演が行われました。この方は、労働者派遣法の専門家ですので、パート・契約社員・派遣社員の待遇と公正な取扱いについて、具体的な事例の紹介がありました。例えば、「親が亡くなると正社員には忌引きという有給休暇があるのに、パートにはそれが無い。親が死んだ悲しみは同じなのに」というように意識化されていない差別があるとのことでした。

これからの企業には、人権に配慮するなどの社会的責任を果たしていくことが求められていることを痛感した1日でした。

(所長 小松 孝良)



故・島尻靖さんの急逝を悼む

法人本部事務局企画次長 渡辺 忠幸

社団法人ゼンコロ事務局長の新規事業担当の責任者として、沖縄県セルプセンターから東京へ出向していた島尻靖さんが、2月7日未明、39歳の若さで急逝しました。あまりの急な知らせに信じられず急いで駆けつけて対面したその姿に、呆然と立ちすくむばかりでした。

島尻さんが東京に来たのは二〇〇二年4月。出身は沖縄だが、小学校高学年から東京に住んでいたこともあって、東京の地理は明るいものでした。ゼンコロ会員法人の主力事業である印刷が厳しい中で、新たに「新規事業委員会」が組織化され、その委員長に就任しました。新しい事業の可能性の模索とその具体的な構築を全面に担い、精力的で縦横無尽の活動と持ち前の明るさで、多くの人たちを巻き込んだ人的ネットワークを築き上げました。

もともと島尻さんは、沖縄で琉球石灰岩とガラスのカレットを原料とした、「グリーン購入法」対象のリサイクルタイル「セルプストーン」

を自ら開発し、県内の福祉工場で生産して建材として販売活動に力を入れていました。また、沖縄名産「ウコン」を化粧品会社の原料として東京に売り込み、県内の障害者作業施設のウコン栽培の促進を図ったりもしました。新規事業のコンセプトは「システム作り」にあると強調していた彼は、一度事業システムが出来上がれば、次の新しい事業システムを考えることが出来る、と多様な分野に働きかけ、可能性の芽を広く育て上げるスタンスを常に堅持していた、その姿が強く印象に残っています。

亡くなる直前は、いよいよゼンコロとしての事業が本格的に立ち上がる大事な時だっただけに、本人もよもやの思いが残ったことでしょうし、残された新規事業委員会のメンバーが彼の意思を継ぎ、課題となっている事業案件を形にしていけることが最大のはなむけになると信じて、深くご冥福をお祈りいたします。

法人の主な動きから

社会就労事業本部の事務統合化について

一昨年の11月に中野工場、東村山工場の第二製造部門を東村山第二印刷所に一本化し、昨年11月には第一製造部門、生産管理部門、そして営業部門と、順次統合化を進めてきました。この年度初めにあたっては事務処理関係の一本化（事務センター）に踏み込むことにいたしました。

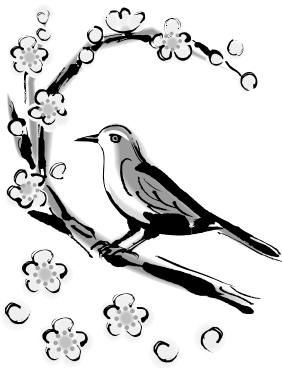
現在は中野、東村山、青葉ワークセンターそれぞれに総務、生産管理事務、営業事務がありますが、これらの間接、管理部門の共通する業務について、事務センターに一本化する作業が進められています。

具体的には受注、売上などの初期入力可能な限り東村山工場内の事務センターで一括しておこない、必要な帳票などは各事業単位で、あるいは統合されたものとして閲覧できるようにします。統合されるシステムは給与、人事、経理、販売、工程、外注など全般にわたります。

営業事務に関しては当面現在の機

能をそのまま中野、青葉ワークセンターに残し、納品書、請求書なども各々現地で発行できるようにします。初期入力がなくなる分、お客様からのお問合せや営業部員のバックアップに厚みをもたせることができると期待しています。さらに利用者支援体制についても、各施設が独自性を発揮しつつもサービスの水準を合わせていく必要があるため、専門職を中心にした組織をつくり、ここで組立てた支援方針にそって、各施設の職員がきちんと支援していけるようにしたいと思います。

（社会就労事業本部長 武者明彦）



中野工場に知的通所授産施設を開設

当法人が所在する中野区では、来年度以降短期的にみても年間10名以上の養護学校卒業生の受入れ先が必要となります。区内の既存施設の定員はほぼ充足されており、今後の受け入れが困難であることから、区の要望にもとづき、この年度定員20名の知的通所授産施設をこれに定める場として計画し、中野区江原町2-6-7に4月1日付で開設することです。東京都に申請し受理されました。

同地にあります既存のコロナ印刷所（定員45名）におきましては、二〇〇三年度までに14名の知的障害者と2名の精神障害者を相互利用枠で受け入れている実績があり、二〇〇四年度当初においても、2名の知的障害者が新たに利用開始を予定しています。知的通所授産施設の開設はこれらの相互利用者を本来施設の受入れ先として設置するもので、精神障害者を除き相互利用は解消されません。

反面、身体障害者に関しましては定員45名のうち現状で28名が利用しており、新たな利用希望は比較的少ない状況が続いています。そうした利用実態にあわせて定員を28名に削

減することとしました。施設規模は小さくなりますが、企業性を取り入れた授産事業を積極的に行い、利用者のニーズに合った支援を引き続き行っていきたいと思っております。

（総務部長 星 忍）



2004年度 総括事業計画書

一、はじめに

前年度より、これまでの「措置制度」から「支援費制度」へ移行し、授産施設と施設利用者の関係は、法人の代表者と利用者との個々の利用契約によるものとなりました。また、同じく前年度から会計についても、「新会計基準・授産会計基準」によるものとなり、全事業所について新会計による会計処理に移行しましたが、社会福祉基礎構造改革に関する一連の施策において、これまでの施設ごとの経営から法人単位での経営が求められることとなっている中で、本年6月には障害者福祉を介護保険に統合するとの動きも見られ、その過程で障害者の働く施設に対して財源不足等の問題から大きな見直しが必要とされています。

二〇〇二年度に当法人の理事3名を委員とする「東京コロナーの運営に関するあり方検討会」の提言により、福祉諸制度の変革に向けて組織の枠組みである事業本部制の見直しを行い、法人としての運営の考え方を整理し、前年度より4つの事業本部を設置し運営してきたところで、本年度はさらにこれらの機能の向上を図ることにより社会的な制度変革に対応しなければならぬ状況にあります。

公的援助が厳しくなる中でも当法人の目的とするサービス水準を自らの経済活動によって維持・発展させ

なければなりません。当法人の主力事業である印刷業は依然として厳しい経営状況にあることを改善するために、一昨年にはコロナー東村山第二印刷所を開設し、前年においては印刷事業の統合化および再編成を実施し、本年度では事業再建に向けてより一層統合化等に取り組み、併せてISO認証取得等の課題を検討することにより経営体質の改善等を図る予定です。

情報処理事業は、入力部門で確実な加工高を得る一方、ネット化社会や障害者雇用の社会的変化に 대응し、より先進的な事業展開を推進していきます。法内化に向けた課題にも取り組みます。

縫製・製袋・防災・安全用品等製造販売事業はトータルとしては黒字基調で推移していますが、縫製・製袋部門の受注対策を実施し、本年度はさらにその改善に目処をつけるべく事業を推進します。

メールサービス事業は、地域における営業活動等、本年度も事業経営の活性化をはかることとします。

生活施設は、東久留米第一氷川台寮（定員6名）、東久留米第二氷川台寮（定員6名）と国分寺戸倉寮（定員4名）について、本格的な事業推進を図ることとしています。本年度も知的障害者地域生活援助事業（グループホーム）としての福祉的支援を充実させていきます。

法人全体として、以上の事業の他、

法人本部を含め各事業本部毎に中期事業目標を定め、その初年度事業として確実な実施を計画します。併せて「苦情解決事業」や「利用者支援マニュアル」の運用により、利用者支援の質的向上に取り組みます。

また、社会福祉の構造改革に関する一連の施策に対応するための法人内部での取り組みとともに、全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、日本障害者協議会、社団法人ゼンコロ等各種関係団体における当法人の役割を本年度も果たしていくものとします。

二、各事業の基本方針

(1) 法人本部

法人全体の全般的な諸問題の処理、各事業本部・事業所の運営を事業計画に沿って確実に行うために必要な実務を行います。また、法人全体の事業運営の円滑化と中・長期的な課題を検討・推進するため、各事業本部長・事業所長や総務責任者（会議）と日常的に連携をとりながら活動します。

各事業本部毎に提起された中期事業目標については、法人本部における本年度の最重要課題として位置づけ取組んで行くものとします。

法人全体の運営管理の充実や事業所間の連絡・最新情報の伝達・共有等のために通信ネットワークの充実

と活性化に努めます。また、障害者問題全般についての情報収集と提供を行い、課題解決のために必要な活動を行います。

(2)福祉工場事業本部(東京都葛飾福祉工場)、「東京都大田福祉工場」

障害者の雇用を第一に考え、生産性を重視する事業としての福祉工場の運営を統括します。

葛飾工場と大田工場はどちらも都立施設であることから同一視点で経営すべきですが、このための環境を整えることを課題として取組んでいきます。

(3)社会就労事業本部(コロニー印刷所)、「コロニー東村山印刷所」、「コロニー東村山第二印刷所」、「コロニー東村山」、「青葉ワークセンター」、「青葉第二ワークセンター」、「青葉第三ワークセンター」

生産性を求めながらも一定の福祉サービスを要求される社会就労施設を統括します。支援費に移行した施設のサービス水準を移行しない施設に対して提供することを基本的に統一的な運営をしつつ、社会的な制度変革にあっても利用者に対する「労働者性」の維持・発展に努めるものとしてします。

社会就労施設として利用者的一般雇用への支援を重視しながらも、今後のあり方として保護雇用(社会的

雇用)の実現への取組みを視野に入れないながら、事業の安定化に向けて取り組むものとします。

また、経営面では印刷事業を中心とする経営改善を図っていきます。なお、生産性を求めながらも一定の福祉サービスを要求されることに対し、「利用者支援マニュアル」を基本とした福祉サービスに各施設が水準をあわせていくこととし、支援費制度において求められる従業員の福祉的専門性を高める取組みも行うこととします。

この事業本部で唯一の入所施設となったコロニー東村山印刷所については今後の福祉施策にあわせ「通所化」を検討していくこととし、相互利用者の増加を受けてコロニー印刷所の分割化やコロニー東村山の種別変更にも取組むこととします。

(4)福祉事業本部(知的障害者グループホーム「国分寺戸倉寮」、「東久留米第一氷川台寮」、「東久留米第二氷川台寮」)

3つのグループホームなど今後の居宅支援事業を視野に福祉を中心とした事業を統括します。

3つのグループホームを福祉的専門性にもとづく支援が行えるよう体制を整えるとともに、居宅支援事業の取り込み等を検討します。

法人全体としての支援費制度等福祉諸制度の改革において求められる取組みやそのための従業員の福祉の

専門性を高める取組み等も担当します。

(5)IT事業本部(「トーコロ情報処理センター事業部」、「トーコロ情報処理センター職能開発室」、「デジタルメディアセンター」)

3つの公益事業を統括します。公益事業については、制度の枠にとらわれない自由な事業展開を基本としながらも、本年度においては将来に向けた法内化を大きな課題とし、当面は事業の安定と継続を課題とします。一定の補助金を見込むことができない事業であるだけに、今後も運営については事業毎に自律性を検証しつつ確実な事業運営を行なうこととします。併せて、社会の先進的な就労(含む障害者雇用)のニーズに応えることを課題としていきます。

(6)その他の事業

①支援費制度への対応の事業

前年4月1日から実施された支援費制度に対しては、関係事業本部・事業所での対応に加え、法人統一の活動の中において、その状況等を検証するとともに「教育研修委員会」の活動を強化することにより「第三者評価」や「利用関係者からの評価」に応えられるものとしていきます。

②障害者製作品の販売あっせん事業

身体障害者福祉法第25条に定めるわが国唯一の指定法人として葛飾福祉工場(製袋事業)およびトーコロ

情報処理センター職能開発室を中心に事業を行います。また、指定法人としてこの法の趣旨が生かせるように法人全体の事業の中でも拡大発展の可能性を探ることとします。

なお、補助金を得ない事業であることから特別会計とはしません。

三、補助事業および施設・設備等整備事業

(1)施設・設備等整備以外の事業に関する補助事業

○「重度障害者在宅パソコン講習事業」(トーコロ情報処理センター職能開発室)

・東京都に対し補助を申請する。

【申請額 五、八八六千円】

・三菱商事株式会社社会・環境室及び沖電気工業株式会社社会貢献推進室に対し引続き援助をお願いするとともに、新たな支援企業の開拓にも努める。

(2)施設・設備等整備事業に関する補助事業

○「大田福祉工場」の整備に関し、東京都と協議をする。

・工場、宿舍エレベーター改修工事

・宿舍埋設給水給湯管改修工事

・工場トイレ改修工事

・屋上防水工事(工場・宿舍共)

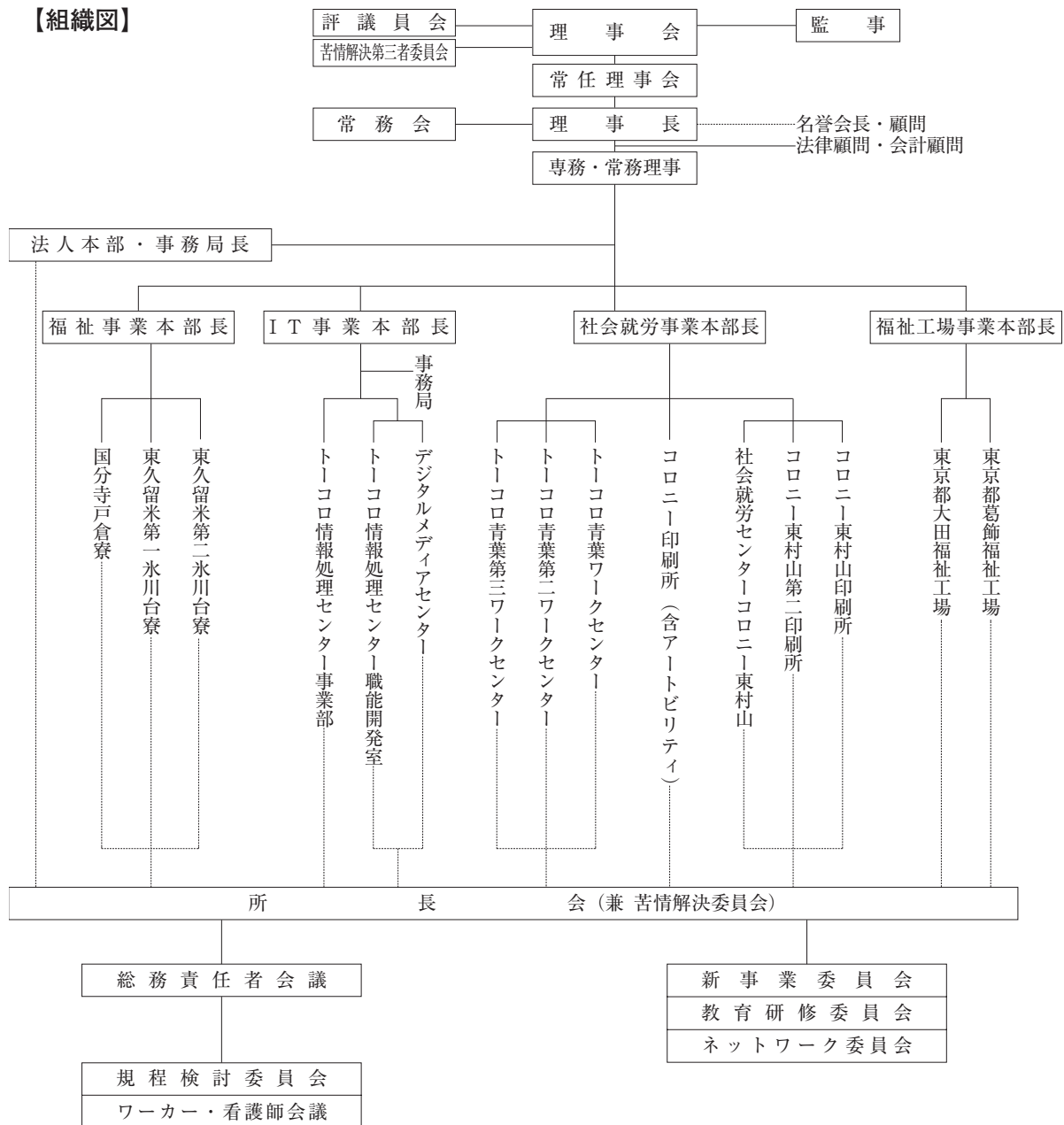
(3)自己資金による施設・設備等整備事業

○東村山工場

・ネットワーク諸整備

- ・ソフトウェア (九〇〇千円)
- ・DPT関連本体バージョンアップ (三、〇〇〇千円)
- ・印刷、製本機器メンテナンス (二、五〇〇千円)
- 青葉ワークセンター (七、〇〇〇千円)
- ・PC、プリンター、ソフト更新 (二、一〇〇千円)
- ・リフト付作業用車両 (三、〇〇〇千円)
- 大田福祉工場
- ・セッターRIP (三、五〇〇千円)
- ・計数機 (一、五〇〇千円)
- デジタルメディアセンター
- ・ソフトウェア (二、〇〇〇千円)
- ・機器の導入 (一、〇〇〇千円)

【組織図】



2004年度 全体予算書

自 2004（平成16）年4月1日

至 2005（平成17）年3月31日

（単位：千円）

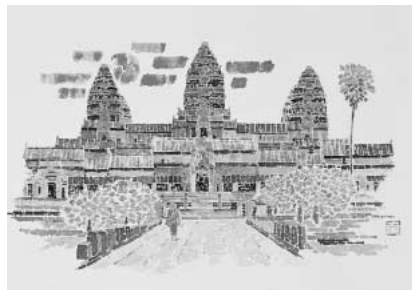
勘定科目		前年度予算	本年度予算	備 考	
授産事業活動	収入	授産事業収入	7,204,070	6,870,308	
		売上高1	6,583,441	6,779,768	
		売上高2	589,854	90,540	
		その他	30,775	0	
	支出	授産事業支出	6,998,648	6,481,861	
		変動費	4,442,421	4,296,650	
		人件費	1,713,757	1,528,299	
		経費	665,076	656,912	
		その他	177,394	0	
		授産事業活動資金収支差額	205,422	388,447	
福祉事業活動	収入	福祉事業収入	973,831	745,969	
		措置費収入	159,273	94,266	相互利用分等
		運営費収入	235,843	224,661	
		利用料収入	253,050	281,891	支援費等
		給食事業収入	13,112	14,446	
		補助金収入	86,625	60,245	
		寄付金収入	6,000	7,000	
		共募配分金収入	1,200	1,200	
		雑収入	32,993	22,440	
		借入金利息補助金収入	8,622	9,050	
		受取利息	12,789	18,470	
		その他	164,324	0	
	支出	福祉事業活動支出	860,097	718,885	
		人件費支出	514,900	426,921	
		事務費支出	160,020	148,247	
		事業費支出	94,969	98,770	
		借入金利息支出	33,700	44,947	
		その他	56,508	0	
	福祉事業活動資金収支差額	113,734	27,084		
財務活動	収入	財務収入	1,046,920	161,765	
		運営資金借入金収入	710,000	150,000	
		その他	336,920	11,765	
	支出	財務支出	1140,627	210,740	
		設備資金借入金償還金支出	73,274	205,840	
		運営資金借入金償還金支出	786,406	0	
		その他	280,947	4,900	
		財務活動資金収支差額	-93,707	-48,975	
	予備費	225,449	366,556		
	当期資金収支差額	0	0		



アートビリティ ギャラリー 9

『アンコールワット』

野村 育葉



■アートビリティ

1986年障害者アートバンクとして設立。「才能に障害はない。障害者の才能は、アートの分野において健常者とかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。登録作家約400名、登録作品約4,000点、昨年1年間の使用実績は約330点、年間の作品応募は2,000点を超えます。2002年4月アートアートビリティと改称。

今月は、しっとりとした大人の雰囲気のご紹介します。

作者の野村育葉さんは、第12回アートビリティ大賞・日立キャピタル特別賞を受賞した実力作家です。

そして、作品のオリジナリティという点で、野村さんの右に出る人はいないと思います。

野村さんは、アートビリティ作家としては珍しく、冊子の表紙をオリジナルで書き下ろす連載を3年間続けた実績があります。クライアントにぜひにと切望されたのです。

連載終了後、残念ながら体調を崩してしまい、しばらくアートビリティへの登録が止まってしまう時期が何年か続きました。

事務局は見守ることしかできなかったのですが、最近になってようやく少しずつ作品を送ってくださるようになってきました。

この『アンコールワット』が送られてきたとき、審査員の誰もが息を飲みました。

作品の美しさ、品のよさ、そして見る人にさまざまな思いを喚起させる感動がこの絵にはあります。

そして作品に対する感動と同時に、野村さんの体調がよい方向に向かっていくことがこの作品から伝わってきて、それが何よりうれしく思いました。

さまざまな障害を抱え、さまざまな思いで作品を制作する作家たちがいます。

彼らがゆつたりとした気持ちでマイペースで作品を制作できるようにサポートすることが、事務局にとつてたいへん大事なことです。

であると、野村さんのこの作品を見てあらためて心に刻みこみました。

野村さんの作品から、しばし異国へと心翔ける旅をお楽しみください。

(アートビリティ事務局 岡嶋 明美)

ご寄付のお礼

マルイグループユニオン様

二〇〇三年11月7日付 三十万円

日本アイ・ビー・エム株式会社様

二〇〇三年12月8日付 二百五十万円

三菱商事株式会社社会・環境室様

二〇〇四年1月9日付 五百万円

以上のように、当法人に対しご寄付を頂きました。

ご支援に対し心よりお礼申し上げます。

ご寄付のお願い

社会福祉法人東京コロニーでは、障害のある方への支援を就労や教育、生活の面から数多くの事業を行なっています。めざすことは、それらによる障害者の大きな意味での自立支援です。

私共の事業を応援して下さる方(あるいは団体)からのご寄付を、下記を窓口で常時受け付けております。いただいたご寄付は、主に新しい事業の立ち上げや先進的な取り組みを行うための財源に充当させていただきます。より多くの方へのより質の高いサービスをめざす当法人の事業に対し、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

(社会福祉法人への寄付は、税金が免除になります。ご寄付をいただいた際にはそのための領収書を発行させていただきます。)

ご寄付受付 社会福祉法人東京コロニー

法人本部事務局(担当 加藤)

tel 〇三―三九五二―六一六六

東京コロニーの ホームページ



東京コロニー メインページ
<http://www.tocolo.or.jp/>



コロニー印刷所
<http://www.tocolo.or.jp/nakano/>



デジタル メディアセンター
<http://www.tocolo.or.jp/dmc/>



コロニー東村山印刷所・コロニー東村山
コロニー東村山第二印刷所
<http://www.hig.tocolo.or.jp/>



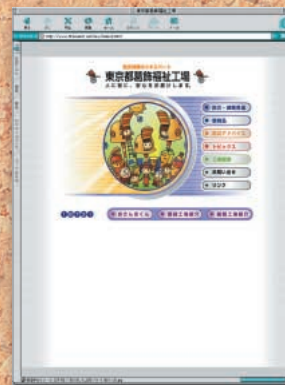
東京都大田福祉工場
<http://www.tocolo.or.jp/oota/>



トーコロ情報処理センター機能開発室
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



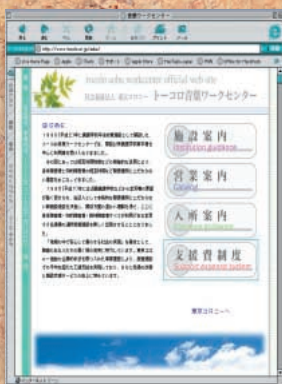
アートビリティ
<http://www.artbility.com/index.html>



東京都葛飾福祉工場
<http://www.fireman21.net/>



トーコロ情報処理センター事業部
<http://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ青葉ワークセンター
<http://www.tocolo.or.jp/aoba/>



生活寮のページ(東久留米・氷川台寮)
<http://www.tocolo.or.jp/hikawada/index.html>